

令和7年度第2回地域密着型サービス運営委員会 議事録

日 時：令和8年2月10日（火）18時30分～

場 所：米子市役所第二庁舎 2階 第2会議室

出席者：委員（9名）※敬称略

遠藤太一（委員長）、高野和男（副委員長）、土井教子、廣江晃、渡邊達生、木村留美子、生島唯、長岡文代、高野由美子

事務局（4名）

山崎長寿社会課長、亀尾介護保険第二担当課長補佐、前島介護保険第二担当係長
秦介護保険第二担当係長

傍聴者：0名

議事内容

（1）第10期介護保険事業計画における地域密着型サービス事業所整備の方針に係る検討について

【米子市からの説明】

第10期介護保険事業計画における地域密着型サービス事業所整備の方針に係る検討についての内容等について説明。

【施設待機者、高齢者向け住宅について】

（委員）

特養の待機者が減少している理由は何か。

（米子市）

本市は、サ高住などの高齢者向け住宅が非常に多く、特養待機者の受け皿となっている可能性がある。

（委員）

サ高住において、特定の事業者がサービスを独占する「囲い込み」や給付費の圧迫が懸念される。市として規制はできないか。

（米子市）

サ高住自体は民間事業のため直接的な規制は困難。併設する介護事業所による様々な懸念については、国レベルでも議論されており、今後の国の動向も注視しながら、給付の適正化については検討課題としたい。

【新しい複合型サービス（訪問と通所）について】

（委員）

新しい複合型サービスの創設についての検討状況は。

（米子市）

現在も、国において創設の是非や条件を検討している段階。令和8年度には国から詳細が出ると予想されるため、引き続き注視していく。

（委員）

通所の人員を訪問へ回すには、資格要件や人員配置の難しさがあると思われるが、市としての認識は。

（米子市）

新たな人員を要するとしたら、たしかにハードルは低くはない。少しでも時間的余裕のある通所事業所が手を伸ばしやすい形や支援が検討できないか模索したい。

（委員）

地域密着型通所介護の総量規制を行う考えはあるか。

（米子市）

選択肢にはあるが、現状は検討段階である。

【事業所の連携、運営の効率化について】

（委員）

小規模な事業所同士が連携して運営するような支援が必要ではないか。横のつながりが希薄である可能性はないか。

（米子市）

事業所からも横のつながりが薄いといった悩みを聞いている。行政として連携の場作りなど支援を検討していきたい。

（委員）

各事業所が個別に送迎を行っている現状は非効率。市として、共同送迎などの仕組みを検討することはできないか。

（米子市）

全国的には、そうした先進事例があることは承知をしている。本市としてもまずは事例を研究していきたい。

(委員)

利用者にとっては、訪問・通所などで事業所がバラバラなのは分かりにくい。窓口が一つになるような連携や統合が進むと良い。

【要支援者層のフレイル対策について】

(委員)

要支援者がデイサービスに依存しすぎるのではなく、地域のフレイル体操などの活動に積極的に参加できる仕組みが重要。

(米子市)

本市としても様々な事業を拡充してきているところ。例えば、NPOや住民団体による多様な「通いの場」を拡充し、介護保険サービス以外でも元気に過ごせる選択肢を増やしている。

(委員)

民生委員として地域を回る際、サービス情報をより多く把握し、適切に繋ぐための認識を持っておく必要がある。

【多機能型サービスの機能強化について】

(委員)

多機能型サービスの機能強化とはどういったことを考えているか。

(米子市)

ひとつは、地域住民のための相談窓口としての機能を強化することを想定している。さらに、職員の人材定着、ケアの質の向上も図り、事業所としての安定性も図りたいと考える。本年度に弓浜地域包括支援センターのブランチを小多機の中に設置した。こうした事例も今後参考にしていきたい。

(委員)

事業所に包括ブランチを置く事例は効果的だったか。今後も増やすのか。

(米子市)

地域に身近な相談窓口として機能しており、良い事例と認識している。積極的に増やす計画は現状ないが、今後の参考にしたい。

【今後の予定について】

(委員)

来年度の計画策定はかなりタイトになると思われるが、スケジュールに問題はないか。

(米子市)

最終的に国の法改正を受けてから、計画書は完成する。国の動向次第では、タイトにならざるを得ない。本市としてはできる準備は遅れのないように進めていきたい。